

「第 1 回防災気象情報の伝え方に関する検討会」に対する意見

検討会委員 東京大学 片田 敏孝

今回の豪雨災害において行政は、過去には見られない異例の対応を行った。気象庁は 5 日に事前の臨時会見を開き、6 日午前には特別警報を出す可能性に言及した。同日午後には、九州に最初の特別警報を出した際、今後特別警報の地域が広がる恐れがあると明言するなど、事態の深刻化を予告する情報を発表した。それに呼応し、各自治体も早い段階から避難勧告などの避難情報を積極的に出すなど、行政の対応は従来に比べて迅速であった。

しかしながら、そのような行政の対応があったとしても各地で災害が発生した。行政側の努力だけではどうにもならない状況を国民も少しずつ理解し始めていて、「共助」の必要性を感じつつあるのではないかと思う。また、災害が多くなれば防災のためにコミュニティーの存在は必然となる。この機運をうまく育てる取組が極めて重要である。さらに、住民に当事者感を持ってもらうための取組として、防災気象情報を、危険度の高まりに応じて段階的にわかりやすく提供することは大変効果的である。ただし、情報は、住民の主体的な避難行動等に活用してもらえるような機運をきちんと醸成することが極めて重要である。

これらの観点から、以下のような点が重要と考える。

記

1 . 地域のコミュニティーを育てる取組の強化

- ・「正常性バイアス」自体は人間の性であり、この本能に無理に逆らう方向性での情報の提供や活用を模索するのは得策ではない。むしろ人は、「自分の大事な人」のためには積極的に行動することが多い。「自分の大事な人」を守ろうと、安全確保行動を促す方向にバイアスがかかる傾向にある。この特性をうまく活かし、地域のコミュニティーを育てることを前提とした戦略で取組を強化して欲しい。この取組は、高齢者等情報弱者対策にも資することが期待される。
- ・「危険度分布」は、皆を巻きこんで避難行動をとっていただくという、地域のコミュニティーを含めた情報として設計し発信していくのがよい。例えば、平常時から、地域の防災リーダーといったキーパーソンをターゲットに、「危険度分布をもとに御近所の高齢者等の方にも呼びかけて皆で一緒に避難する」のように呼びかけることで、危険度分布を活用した地域のコミュニティーの考え方を醸成するのも有効。

2 . 気象庁が行う記者会見で何を伝えるか

- ・平成 30 年 7 月豪雨において気象庁が実施した記者会見で、大雨特別警報の可能性にまで触れたのは画期的であり、防災機関としての気迫と覚悟を感じた。国民もこれまでにない危機感を感じることができたのではと想像する。重要な過去事例として大切にしたい。
- ・また、気象庁の記者会見では「大事な人」というキーワードも用いられたと聞く。地域のコミュニティの観点からも重要なキーワードであり、効果的だったと思う。ただし、気象庁の誰しもが使える言葉ではないと思われるので、どのような場合にどのように用いるのか、その基準を明確にしておくのがよい。

3 . 地域のコミュニティと防災気象情報

- ・警報には地域的な解像度はないため、当事者感があまりないが、危険度分布は、段階的に危険度の高まりが分かりやすく表現されており、かつ、市町村単位よりも詳細な解像度の情報となっており、住民に当事者感を持ってもらうために大変効果的と考える。
- ・地域のコミュニティに資する観点から、防災リーダー等が確実に地域の危険性の高まりに気付くことができるよう、信号機のようにシンプルに「A 市は紫（避難）」と伝えることや、危険度分布でハザードマップを重ねた表示が実現すれば非常に有効と考える。
- ・ただし、こうした情報は、単に周知するだけでなく、活用のための機運をきちんと醸成することが極めて重要であり、発信者側だけでなく防災リーダー等とのコミュニケーションも高めて欲しい。

（参考）最近の取組：地域のコミュニティを再生する「デジタルてんでんこ」

- ・避難行動要支援者対策として、集落の中の要支援者をアプリに登録していただき、登録した人の場所に関する防災情報をアラートで受け取ったり、登録者数を市町村毎のランキングにするなどして「共助」の取組を促す「デジタルてんでんこ」とも呼べるような仕組みを IT 企業と損害保険会社と共同で計画している。特定の人に要支援者の避難援助を強いるようなものではなく、近くにいるときなど可能なときにのみ避難を助けるというような「緩やかなマッチング」（例：戸田市）を目指すものである。これを国民的に広げたいと考えており、地域のコミュニティを再生することで、情報を活用した防災行動につなげようという取組である。

参考

命を守るのが苦手な日本人、「皆で逃げる」地域作りを急げ

（片田敏孝、WEDGE Infinity（2018 年 9 月 4 日掲載）<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/13824>）